

「指定校推薦」と「自己推薦」

「大学入学者選抜」の始めは「指定校推薦」である。指定校推薦の制度の理解とその判断が大きな選択の始まりである。

まずは、自分の評定平均と、欠席数と、推薦のアピールポイントについて、調査しその内容をコンパクトにまとめてみるのが大切だ。自分の志願する大学群の求める評定や条件をまとめることも非常に重要だ。

「指定校推薦」は、私立の場合が多い。多いというかすべてだ。私立なので、入学金や授業料を調べることに、生活のために資金をシミュレーションすることも重要だ。

次に、昨年まで本校に来ていた指定校推薦の学校を知ることが大切だ。三者面談等にデータが担任にわたることが多いので、それまでに方針ができたのなら、担任の先生にその旨相談することが必要だ。

もちろん、中間考査の点数のアップも必然だ。9月の期末考査で、3年生の仮評定が確定し、自分の評定平均の値が確定する。

このこととともに、一般受験への準備をすることも欠かせはならない。仮に、指定校推薦に申し込んでも、学内にライバルが現れると、指定校推薦から漏れてしまうこともあるので、慎重に自分の実力を高めておくことと一般受験に回ることへの対応も大切なことだ。

仮に、「指定校推薦」の候補者になっても、大学での面接があり、それぞれ合否が決まっていく。その面接で、英語の表現とかが問われて何も答えられないと合格はしない。

もし、うまくいって合格を勝ち取っても、大学合格後の学習程度の成績によって、落第などになると高校への「指定校枠」が外され、後輩に迷惑がかかるということもある。

ということをよく考えてまずは、保護者や担任と共通理解を持つことで、自分の道を切り開いてほしい。

「指定校推薦」の次なる岐路は、「自己推薦」と「AO入試」への知識である。センター対策を進めながら、AOⅡ期の入試とⅢ期の入試の違いなども調べておこう。

大学によっても大きな違いがあるので、学習をきちんと積み重ねながら、制度理解に努めてほしい。

決して一人きりでやることはない。磐城高校の力を結集し、駆使し、対策してほしい。